

憲法九条の会・岩岡 ニュース 第90号

2015・4・3発行

発行人 堀口照美／編集人 白井篤子

「憲法九条の会・岩岡」第9回総会のおしらせ

と き:2015年5月3日(日・憲法記念日) 13:00~16:00

ところ:岩岡連絡所多目的ホール(大)

内 容:

13:00~16:00 バザー

13:30~13:55 総会

- ・「憲法九条の会・岩岡」8年間のあゆみとこれから
- ・会計報告
- ・2015年度役員選出

14:00~14:30 ジム・デイヴィスさんのお話

「外国人から見た憲法9条」

14:35~15:25 DVD上映「知られざる最前線—神戸が担ってきた「日米同盟」

(2014年9月21日、4チャンネルで放映)

神戸港は、戦後すぐに米軍に全面占領され、米軍基地とされました。年間300隻以上の米軍艦が入港した年もあり、たくさんの米兵が三宮や元町の繁華街に繰り出し、市民とのトラブルが多発していました。朝鮮戦争(1950~53年)では8,000人の日本人が海上輸送などにかり出され、多くの死者を出しました。この事実は、憲法9条違反として闇に葬られたのです。

神戸港の労働者と市民は共同で「米軍基地撤去」を求めて闘い、1974年夏、米軍基地は神戸市に全面返還されました。75年3月18日、神戸市は、「核兵器積載艦船の神戸港入港拒否に関する決議」を行いました(非核「神戸方式」)。以来40年になります。



ジム・デイヴィスさん

バザーにご協力下さい

物品を寄付していただける方は、当日13時までに岩岡連絡所多目的ホール(大)にもってきていただき、ご自分で決めた値段の値札のところに置いて下さい。もしくはお知り合いの世話人までお持ち下さい。買っていただける方は、値札のところに置いてある箱にお金を入れてお持ち帰り下さい。売り上げは「憲法9条の会・岩岡」の活動資金に使わせていただきます。ご了承下さい。

日本を戦争する国にしてはならない

あなたの子が孫が戦争に行く、そうなった時にはもう遅い!

2,000万人のアジアの人々、310万人の日本人の命が失われた太平洋戦争。戦後、私たちは「戦争は絶対にしてはならない」と平和な社会を築き、「戦争をしない国、日本」という名誉あるブランドで世界から信頼されてきました。

ところが安倍政権は、「憲法9条の下では海外での武力行使は許されない」としてきた歴代政府の憲法解釈を、国民多数の声を無視して19人の「閣議決定」で180度転換しました。さらに、禁じられていた外国への武器輸出を可能にし、自衛隊の派遣は「日本周辺」から「全地球規模」に変更するなど「戦争する国」へと急激に舵を切っています。「テロとの戦い」に名を借りたこのような暴走は、日本国憲法の平和主義を形骸化し、憲法9条の廃止をねらう安倍政権の「改憲」先取りであり、許すことはできません。



憲法が危ない! 「憲法九条の会 全国討論集会」開かれる

3月15日、東京神田の専修大学で、上記の集会が開かれました。参加者が多く、急遽会場が変更になりましたが、全国から集まった九条の会の世話人で、定員500人の階段教室はほぼ満杯。発言を希望する参加者は一人3分という制限の中熱弁をふるい、会場は熱気にあふれました。(裏へ)

大江健三郎さんの話

韓国で開かれた世界フォーラムで、元フィンランド大統領で、ノーベル平和賞受賞者のマルッティ・アハティサーリさんは「東アジア、韓国、中国、台湾、尖閣諸島など様々な問題が過熱しているが、それが世界戦争になる可能性は20%。それを起こりえないものとする東アジアの政治家の努力が必要だ。日本に「九条の会」というものがあり、それに希望をかけている」と言われた。それに私たちは応えたい。20%の希望は、私たちの願いと運動にかかっている。

澤地久枝さんの話

国会の承認を得ないで、首相の一存でことを決めようという動きが非常に露骨です。これほど日本人の生活が危ぶまれたことはかつてありません。皆さんの息子や孫の中から、逃げようもなく戦死者が出る事態がもう背中に迫っています。安倍首相は「私たちの国が侵される」と言いますが、よその国に対しては、「私たちは憲法9条を持ち、一人の戦死者も出さない時代を守ってきました。だからあなたたちも参考にしてください」と言えるような国にしたい。

渡辺 治さん（一橋大学名誉教授）の報告—「安倍改憲は何をめざすか、いかに阻むか」

(1) 安倍内閣は戦後70年の中でどこにいるのか—安倍内閣の歴史的な位置

- ・ 1950年代の明文改憲の策動は、安保闘争で挫折した（岸内閣倒れる）。
- ・ 60年代から30年間は改憲を封印して、解釈で安保、自衛隊の維持を図ってきたが、「自衛隊は自衛のための必要最小限度の実力」であるとして自衛隊の活動には大きな制約があった。
- ・ 90年代以降、アメリカの「ともに血を流せ」の圧力で、改憲、自衛隊の海外派兵をめざすが、イラク派兵時、小泉首相は「人道復興支援のための派遣」と言わざるを得なかった。
- ・ 2004年のイラク派兵後、武力行使できない限界突破をめざす明文改憲が叫ばれるようになり、第一次安倍内閣は「任期中の改憲」を明言したが、九条の会の運動で挫折した。
- ・ 第二次、第三次安倍内閣で、戦後70年の悲願を達成しようと、解釈改憲を先行させ、明文改憲にも踏み込んでいる。



(2) 安倍内閣はどんな日本をつくらうとしているのか—「戦争する国」をつくるための体系的な攻撃

- ① 憲法9条の解釈改憲で、これまでの政府解釈の体系—海外派兵はしない、アメリカの戦争に参加しない（集団的自衛権行使は違憲）、他国の武力行使と一体化した活動も認めない（戦地には行かない、行けない）—を壊す。
- ② 憲法に基づいて維持してきた戦後制度を改変して、戦争するのに不可欠の制度、体制を作る
1. 秘密保護法の制定、国家安全保障戦略と日本版NSCの設置（戦争指導部を作る） 2. 辺野古新基地建設 3. 武器輸出3原則の廃棄（軍需産業の育成）、ODA大綱廃棄（軍隊にも援助） 4. グローバル企業の競争力と市場作り（TPP、原発再稼働） 5. 国民意識を改変する「教育改革」、歴史の修正

③ 安倍内閣の誤算と「限定行使論」による閣議決定

「特定秘密保護法」の反対運動で、公明党が動揺し、内閣法制局の抵抗で、集団的自衛権限定行使論に切り替えざるを得なくなった。

(3) 安倍内閣は、「戦争立法」で何をめざしているか—正念場となる2015年

安倍内閣が今国会での強行をねらう「戦争立法」は、いつでも、どこでも、どんな戦争にでも、あらゆる形でアメリカの戦争に加担できる、それを可能にする立法。それが成立すれば9条の意味はなくなる。「戦争立法」を止められたら？閣議決定だけでは自衛隊は一步も動けない。国会で「戦争立法」をつぶせば「戦争する国」づくりはできない。「戦争立法」を通すようなことがあると？憲法は破壊される。総選挙後、安倍首相は国民投票、明文改憲に言及した。

(4) 改憲を阻む新たな可能性を生かし、地域を根城にして良心的保守を巻き込んだ共同を！

第87回世話人会

と き: 2015年4月18日(土曜日)13:30~15:30 ところ: 岩岡連絡所多目的ホール(小)
総会の準備と学習を行います。どなたでもご参加下さい。

投稿 ベトナムは今

最初にベトナムに行ったのは、37年前の1978年、ベトナム戦争勝利から3年めの夏だった。日本ベトナム友好協会が飛行機をチャーターしてマニラ経由でベトナムへ。総勢125人。その後10周年、20周年と切りのよい時に訪問しようと思っていたがかなわず、今年はベトナム解放40周年なので、ラストチャンスと思って「松本善明さん（元・衆院議員 88歳）&猛さん同行・ベトナムの歴史といまを訪ねる7日間」というツアーに参加した（1月26日～2月1日）。総勢30人。成田からも関空からもベトナム航空の直行便が出ているので別々の便で行き、サイゴン空港（タンソンニエット空港）で落ち合った。37年前の空港は、田舎町のバスターミナルという感じで私たちの他には客もいなかった。今は堂々たる空港で、ベトナムの発展を嬉しく思った。

今回の旅は、タイトル通り「ベトナムの歴史といまを訪ねる」旅で、北から南へ密かに物資を運んだホーチミンルートを歩き、奥地の少数民族カトゥー族の村を訪ね、元解放戦士の老人から話を聞き、いわさきちひろが絵を描いたベトナムの短編「母さんはおるす」のタムガイ村を訪ねて女性英雄ウィン・ティ・ウォクさん（1931～68）の遺児と話し、ベトちゃん、ドクちゃんて知られるツーズー病院訪問、と盛りだくさんだった。移動の間2台のバスに松本善明さんと猛さんが交互に乗られ、いわさきちひろの絵の才能がどこから来たかとDNAをたどる話、猛さんが娘の春野さんと作った原発の絵本のことなど興味深い話をたくさんされた。

日本語の通訳は、通訳会社の社長（40代）ということだが、ベトナム現政権に批判的だった。曰く、「戦後のベトナムの指導者はジャングルで戦争していた人ばかりで、経済発展の方法がわからなかった、アメリカの経済封鎖が10年続いた、中国との戦争、カンボジアとの紛争等々で経済発展が遅れている、戦争に負けていれば、日本のように経済発展したかもしれない等々」。直接その場で反論したわけではないが、松本善明さんは「ベトナム戦争の勝利は世界史的意義のあることで、ベトナムが勝利したればこそ今、TAC（東南アジア友好協力条約）やASEAN（東南アジア諸国連合）など東南アジアで平和のシステムが構築されている。私は第三次世界大戦は起こらないだろうと思っている」と話された。

旅行の最終日は、戦争証跡博物館の一室で、女性の博物館長、ハーバード大学に留学していたという歴史の先生、ベトナム日本友好協会会長、元解放戦士などの方々と私たち一行の交流会が行われた。ベトナムは9,000万人口の7割が40代以下の戦後生まれで、戦争体験の継承に苦慮していると言われていた。私たちの一行の女性が、福島原発事故が収束されていないのに、安倍首相はベトナムなど外国に原発を売り込んでいることや、戦争のできる国にしようとしていること等々、日本の抱えている問題を話した。館長の女性は、日本のシッパイもよく考えますと言われていたが。



枯葉剤がまかれたジャングルの少年

↓

数十年後、少年は障害者になっていた
右は息子。かつての父によく似ている

ベトナムが甚大な被害を与えたアメリカに賠償を請求している話をあまり聞かないのはなぜか不思議に思っていたが、館長の言によれば「私たちは敵とも仲良くします」とのこと。武力による報復が何を生むか、「イスラム国」による日本人殺害のニュースもただ中でのベトナム訪問だった。

37年前の戦争博物館は粗末な木造の建物だったが、今は鉄筋コンクリートの非常に立派な建物で、年間数百万人が訪れるそうだ。私たちが行ったときも白人を含め観光客も多く、地元の子どもたちでにぎやかだった。
(白井篤子・記)

